

## タイ王国副首相及び運輸大臣一行のUR訪問及び地区視察

～バンスー開発に関する現地政府機関との連携強化～

令和4年12月7日～9日の3日間にわたり、タイ王国より、副首相、運輸大臣、運輸次官、運輸省各局長他、タイ国有鉄道（SRT）総裁他、タイ国有鉄道資産管理会社（SRTA）CEO他の総勢約40名が訪日し、独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）への訪問及び現地視察が行われました。

UR都市機構は令和2年12月にタイ王国運輸省、SRT、日本国国土交通省とクルンテープ・アピワット中央駅周辺（バンスー地域）都市開発の事業推進について協力覚書を交換し、日本の都市開発の事例の共有や、タイ運輸事務次官が議長を務めるバンスーステアリングコミッティ等で開発の進め方を提案するなど、バンスー開発の事業化の促進を支援しています。

令和4年9月には日系のスマート事業者とワーキンググループを組成し、開発ビジョンやリーディングプロジェクトを検討しており、今後国土交通省、独立行政法人国際協力機構（JICA）と共にタイ側に提案する予定です。

UR都市機構は今後もタイ政府機関との連携を強化していくと共に、日本企業との連携も深め、バンスー開発の事業化を促進してまいります。

### ■訪問及び現地視察の概要

#### ・第一日目

バスターミナル東京八重洲の視察を実施しました。東京駅前の再開発ビル内へのバスターミナル設置に係る国、地元自治体等の関係者間の連携や、利用者目線でのアクセシビリティ、利便性、快適性の高いバスターミナル整備の概要等を説明しました。



バスターミナル東京八重洲視察時の様子

・第二日目

サックサヤーム運輸大臣一行のUR都市機構本社への訪問を受け、中島理事長以下と今後のバンスー開発の進め方に関して意見交換を行いました。その後、みなとみらい地区の視察を行い、大規模都市開発における公共側によるインフラ整備や段階的整備、初動期の暫定利用の活用、ガイドライン等による質の高い都市空間形成について説明しました。



タイ運輸大臣のUR都市機構本社訪問時の様子



みなとみらい地区視察時の様子

・第三日目

アヌティン副首相、サックサヤーム運輸大臣一行によるうめきた地区の視察を実施しました。都市再生緊急整備地域指定などの事業促進制度、関係者間の連携した計画策定、民間事業者公募の手順や方法、うめきたまちづくりの特徴である「ナレッジキャピタル（知的創造活動の拠点）」や「広大なみどり」等について説明しました。

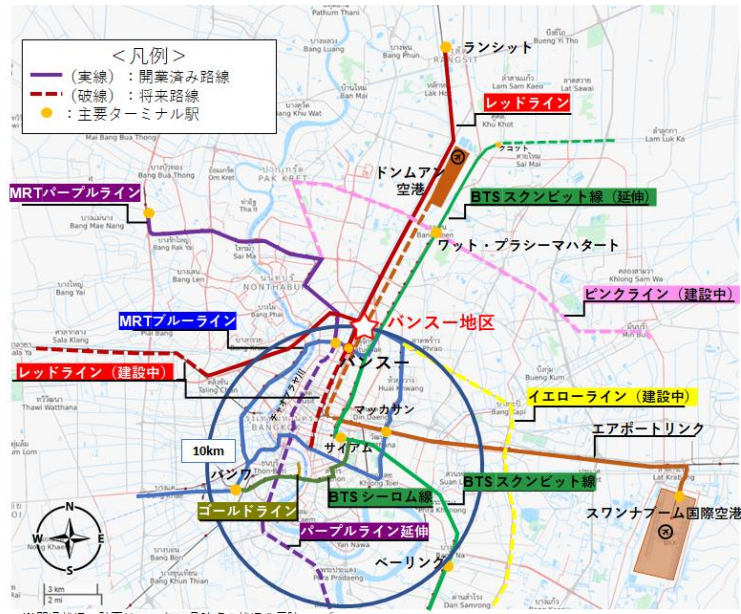


うめきた地区視察時の様子

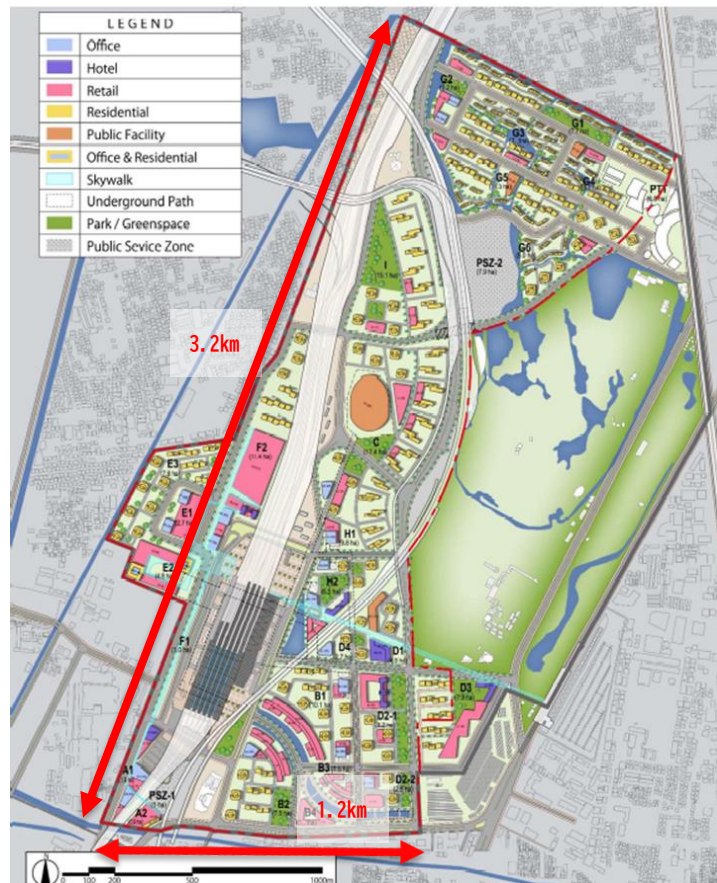
■参考

【クムンテープ・アピワット中央駅周辺（バンサー地域）開発の概要】

- ・タイ王国運輸省、SRT、SRTAは2021年12月に正式開業したバンコクの新たなターミナル駅である、クムンテープ・アピワット中央駅周辺に広がるSRT所有地372haのスマートシティ開発を推進。



※開通状況、計画は2021年12月時点の状況を反映  
バンコク中心部とバンサー地区の位置図



バンサー開発の土地利用計画図（JICA 調査，2017年11月）